

人間と仏教Ⅱ		担当教員	か 香	つき 月	たく 拓
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択		
演習	1 単位	1・2 年次通年	必修		

[1] 授業のねらい

教養科目「人間と仏教Ⅰ」を建学の精神の基盤、本科目「人間と仏教Ⅱ」をその具体的な活動の場とする。キャンパスカレンダーに記載されたAHの日に実施する。

[2] 授業の計画

1 年次

- 第 1 回 4 月 降誕会（学園長講義①）
- 第 2 回 5 月 開学記念日（学園長講義②）
- 第 3 回 5 月 2 年後の理想像と 1 年次前期の目標設定
- 第 4 回 6 月 建学の精神に関する企画Ⅰ（学園長講義③）
- 第 5 回 9 月 1 年次前期の自己評価と後期の目標設定
- 第 6 回 10 月 建学の精神に関する企画Ⅱ
- 第 7 回 12 月 成道会
- 第 8 回 1 月 讃仰会（追弔会）

2 年次

- 第 9 回 4 月 1 年次の自己評価と 2 年次前期の目標設定
- 第 10 回 4 月 降誕会
- 第 11 回 5 月 開学記念日・地域ボランティア
- 第 12 回 6 月 建学の精神に関する企画Ⅲ
- 第 13 回 9 月 2 年次前期の自己評価と後期の目標設定
- 第 14 回 10 月 建学の精神に関する企画Ⅳ
- 第 15 回 11 月 成道会
- 第 16 回 12 月 讃仰会（追弔会）
- 第 17 回 1 月 2 年間の自己評価

[3] 評価の方法

レポートの提出等により、単位の認定を行う。
また、欠席、遅刻、早退については減点の対象とする。

[4] 教 材

その都度配布する。

人間と文学		担当教員	まえ 前	だ 田	けい 敬	こ 子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択			
講義	2単位	2年次前期又は後期	選択			

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

語り（音声）・活字・映像による表現の特性に着目しながら、「文学」は人に何をもたらすか、「文学」はどこから生まれてくるのか等の問題について、思索を深める。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 歌詞の力・詩の魅力（1）
- 第 2 回 歌詞の力・詩の魅力（2）
- 第 3 回 文学のふるさと「赤ずきん」「伊勢物語」など
- 第 4 回 活字と映像の比較「潮騒」第1場面
- 第 5 回 活字と映像の比較「潮騒」第2場面
- 第 6 回 活字と映像の比較「潮騒」第3場面
- 第 7 回 活字と映像の比較「潮騒」第4場面
- 第 8 回 原作と映像の工夫「舞姫」の原作を読む（前半）
- 第 9 回 原作と映像の工夫「舞姫」の原作を読む（後半）
- 第 10 回 作品のテーマを探る「舞姫」第1場面
- 第 11 回 作品のテーマを探る「舞姫」第2場面
- 第 12 回 作品のテーマを探る「舞姫」第3場面 まとめ
- 第 13 回 原作と比較する「魔女の宅急便」前半
- 第 14 回 原作と比較する「魔女の宅急便」後半
- 第 15 回 原作のテーマと映像のテーマ

[3] 評価の方法

レポートで評価する。
ただし、受講態度によっては、減点することもある。

[4] 教 材

森鷗外・井上靖訳『現代語訳 舞姫』（筑摩書房）
三島由紀夫『潮騒』（新潮社）

[5] 参考図書

『坂口安吾全集 03』（精興社）
角野栄子『魔女の宅急便』（福音館書店）
その他必要に応じて紹介する。

行動と心理		担当教員	み 三	わ 和	まさる 優
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択		
講義	2単位	2年次後期	選択		

[1] 授業のねらい

心理学の基礎的な分野である「知覚」、「記憶」、「社会」、「動機づけ」、「思考」、「青年」、「発達」、「臨床」について学習します。この分野の心理学を学ぶことが、日常生活をおくる上で、どのようなメリットがあるかについて、具体例を豊富に出しながら説明します。学習した内容が、「自分自身にとって、どのような意味を持っているのか」「自分自身の生活の中で、どのように活用することができるのか」を考えてもらいます。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 知覚のしくみ 1 (人間の目の性質)
- 第 2 回 知覚のしくみ 2 (視覚の法則性)
- 第 3 回 記憶のしくみ 1 (記憶の基本的なしくみ)
- 第 4 回 記憶のしくみ 2 (確実に覚えるために)
- 第 5 回 対人関係の心理学 1 (他人の理解)
- 第 6 回 対人関係の心理学 2 (説得による態度変化)
- 第 7 回 動機づけのメカニズム 1 (動機づけのメカニズム) と中間テスト
- 第 8 回 動機づけのメカニズム 2 (やる気を引き出す)
- 第 9 回 思考のしくみ 1 (メタファー)
- 第 10 回 思考のしくみ 2 (アナロジー)
- 第 11 回 発達の心理学 1 (乳幼児・児童期)
- 第 12 回 発達の心理学 2 (青年期)
- 第 13 回 発達の心理学 3 (成人期・高齢期)
- 第 14 回 臨床の心理学 1 (心の不調)
- 第 15 回 臨床の心理学 2 (臨床心理学を日常生活に活かす)

[3] 評価の方法

試験は中間テストと試験期間中の期末テストの計 2 回行います。
配点は中間テストが 30 点、期末テストが 70 点です。
欠席、遅刻・早退および授業の進行の妨げになる行為については減点します。

[4] 教 材

藤田哲也編著『絶対役立つ 教養の心理学』(ミネルヴァ書房 2009)

[5] 参考図書

榎本博明『はじめてふれる心理学』(サイエンス社 2003)
中島義明・繁榊算男・箱田裕司編『新・心理学の基礎知識』(有斐閣 2005)
E. E. スミス著 内田一成 監訳『第 14 版 ヒルガードの心理学』(ブレーン出版 2005)
中島義明・箱田裕司・繁榊算男編『新・心理学の基礎知識』(有斐閣 2005)
無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳編『よくわかる心理学』(ミネルヴァ書房 2009)

ヒトの生物学		担当教員	まえ だ まさ のり 前 田 正 紀
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2 単位	2 年次前期	選択

[1] 授業のねらい

“ヒトとは何か”という問いに答えるためには、からだのつくり・はたらきや生きているとはどのようなことかを知ることが必須である。また、人類の行く末に思いをはせるとき、ヒトを含めた生物の進化や太陽系の歴史、宇宙創造の過程を推考しておくことも欠かせない。

近年、生命科学の進歩はめざましいが、こうした新しい成果についての理解や関心を深め、いのち’に対する畏敬の念をあらたにするとともに、人類の活動が地球を破滅に導きかねない今日の危機的状況を踏まえ、ヒトは地球生命体の一端を占める存在に過ぎないこと、この生命体はすべての生物種によって互いに支え合い維持されていることを念頭に授業を展開する。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 宇宙と太陽系・地球の誕生
- 第 2 回 生命の起源と進化
- 第 3 回 ヒトの登場
- 第 4 回 日本列島と日本人
- 第 5 回 1～4 回のまとめとレポートの作成
- 第 6 回 人体の構成(1) 細胞～循環器系
- 第 7 回 人体の構成(2) 消化器官系
- 第 8 回 人体の構成(3) 肝臓、腎臓、脾臓
- 第 9 回 人体の構成(4) 皮膚、筋肉、骨格系
- 第 10 回 人体の構成(5) 神経系と精神活動
- 第 11 回 6～10 回のまとめとレポートの作成
- 第 12 回 発生と遺伝
- 第 13 回 遺伝子の本体と形質支配
- 第 14 回 寿命と再生医療
- 第 15 回 地球環境問題と自然保護

[3] 評価の方法

試験期間中の試験とレポート等で評価する。

試験(55点)、5回目と11回目の授業終了時に提出するレポート(45点)。その他、欠席、遅刻、早退を減点し総合して評価する。

[4] 教 材

プリント資料を配付する。

[5] 参考図書

菊山 栄・北川 修・桑沢清明・平田恒彦・音川 実・吉村皓子『人間の生物学』(培風館)

環境の化学		担当教員	おき 沖	まさ 昌	や 也
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択		
講義	2 単位	2 年次後期	選択		

[1] 授業のねらい

近年、環境悪化は世界規模の大きな問題として注目を集めている。本講義では、過去に起こった環境問題、現在の日本国内・世界規模での環境問題、未来に起こりうる環境問題、今後の対応策に関して、幅広い視点から講義する。また、環境悪化における人体への影響についても講義し、環境悪化を身近な問題として理解し考える。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 環境悪化における人体への影響 I
- 第 2 回 環境悪化における人体への影響 II
- 第 3 回 環境悪化における人体への影響 III
- 第 4 回 遺伝子組換え技術
- 第 5 回 日本で起こった公害
- 第 6 回 日本国外で起こった公害
- 第 7 回 日本国内外で起こった薬害問題
- 第 8 回 環境とエネルギー I
- 第 9 回 環境とエネルギー II
- 第 10 回 世界的な環境問題と対策 I
- 第 11 回 世界的な環境問題と対策 II
- 第 12 回 世界的な環境問題と対策 III
- 第 13 回 環境因子とストレス
- 第 14 回 環境因子と生活習慣病
- 第 15 回 環境因子とその他の疾患

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を行う。
授業中に行う演習(小テスト)(30点)、試験(70点)で評価する。
授業に欠席すると演習(小テスト)が受けられないことになり減点の対象になる。

[4] 教 材

必要に応じて資料を配布する。

[5] 参考図書

生命と環境の科学 (地人書館)
環境問題に関する図書

[6] その他

授業および配付資料の内容に関係した演習(小テスト)を行います。さらに新聞記事からの演習(小テスト)も行います。普段から環境問題に関する新聞記事に注目し、切抜きしよう。

変動する社会		担当教員	やま 山	なか 中	ち 千	え 恵
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択			
講義	2 単位	2 年次後期	選択			

[1] 授業のねらい

本講義では、女性の社会的位置づけに注目し、さまざまな社会現象を分析することを通じて、社会学的な基礎教養を身に付けることを目指す。授業では、社会制度、政策の現在をとりあげるとともに、日常に生じるさまざまな出来事をテーマとして、ジェンダーやセクシュアリティ、グローバリゼーション、メディアなどに注目しつつ「社会の変動」を、自分たちの身近な問題として考えることとする。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 社会学とはどのような学問なのか？
- 第 2 回 社会的自我の形成
- 第 3 回 学校
- 第 4 回 恋愛①
- 第 5 回 恋愛②
- 第 6 回 恋愛③
- 第 7 回 働く①
- 第 8 回 働く②
- 第 9 回 家族①
- 第 10 回 家族②
- 第 11 回 メディア①
- 第 12 回 メディア②
- 第 13 回 スポーツと余暇
- 第 14 回 グローバル化
- 第 15 回 社会の中の「私」を考える

[3] 評価の方法

試験期間中の試験（70 点）および、授業中の授業内の小レポートやコメント、グループ作業への参加度合い（30 点）によって評価する。

[4] 教 材

伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社・1998 年）

[5] 参考図書

授業中に指示する。

スポーツ実技		担当教員	みずぎし 水 岸	まこと 誠 他
授業の種類	単位数	配当学年・時期		必修・選択
実技	1 単位	2 年次通年		選択

[1] 授業のねらい

様々なスポーツ種目を楽しめる知識・技能・態度を身につけ、より豊かな学生生活を送るとともに、生涯に亘ってスポーツ・レクリエーションを楽しむことのできる実践的能力を培い、健康の維持増進・体力の向上をねらいとする。

[2] 授業の計画

授業は 1 期(前期前半)、2 期(前期後半)、3 期(後期前半)に分割して行う。

第 1 回 前期オリエンテーション(登録・実技種目の説明・種目の選択)

第 2 回～第 8 回 1 期実技(基礎技能)

第 9 回～第 15 回 2 期実技(応用技能)

第 16 回 後期オリエンテーション(実技種目の説明・種目の選択)

第 17 回～第 19 回 3 期実技(基礎技能)

第 20 回～第 23 回 3 期実技(応用技能)

[開設する実技種目は、トランポリン、ローラースケート、ダンス、ボールゲーム、レクリエーションスポーツだが、受講者数、体育施設の関係から、担当教員が実施する種目を決定する。]

本年度は、環境はレクリエーションスポーツ①→②→ダンス

食物はトランポリン→ダンス→レクリエーションスポーツ①

を予定している。

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。

この時間に参加して実技をすることに意義があるので、出席状況で 70 点、技能テストで 20 点、受講態度で 10 点の割合で評価する。

[4] 教 材

随時、資料をプリントして配付する。

[5] そ の 他

23 回の授業の 3 分の 1 を越えて(8 回以上)欠席した場合、単位は認定されない。

ドイツ語		担当教員	いち はし ゆみ こ 市 橋 優美子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2単位	2年次通年	選択

[1] 授業のねらい

本演習の目的は、ドイツ語の基本的な単語と文法を学習し、辞書や文法書を用いて、各自が簡単なドイツ語の文章の意味をほぼ理解できるようになることである。また、日常生活でよく使われる定型の簡単な挨拶文を用いて、ごく基礎的な会話の能力を身につけたい。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 オリエンテーション：ドイツ語学習の手引き
- 第 2 回 ドイツ語のアルファベットと発音
- 第 3 回 挨拶文、自己紹介で用いる簡単なドイツ語の文章
- 第 4 回～第 6 回 動詞の現在人称変化、sein と haben の現在人称変化
- 第 7 回～第 9 回 名詞の性と冠詞、冠詞類の格変化、命令形、定動詞の位置
- 第 10 回～第 12 回 前置詞の格変化、前置詞と定冠詞の融合形、基数詞
- 第 13 回～第 15 回 話法の助動詞、分離動詞、再帰代名詞
- 第 16 回～第 19 回 名詞の複数形、形容詞の格変化、比較級と最上級
- 第 20 回～第 22 回 従属接続詞と定動詞の位置、zu 不定詞とその用法
- 第 23 回～第 26 回 動詞の三基本形、過去人称変化、過去分詞、未来形
- 第 27 回～第 29 回 現在完了形、未来完了形、過去完了形
- 第 30 回 さらに発展的な学習のために

[3] 評価の方法

試験期間中の試験を行う。
試験、小テスト（28 回）で評価するが、出席して授業に参加することに意義があるので、欠席、遅刻、早退及び授業の妨げになる行為を減点して評価する。

[4] 教 材

増本浩子著『やさしいドイツ語入門』（白水社 2008）

[5] 参考図書

各自、必ず独語辞典を購入し、毎時間持参すること。購入については特に指定はしないが、初学者に使用しやすい辞典を数点、オリエンテーションの際に指示する。

[6] そ の 他

語学の学習には、集中力が必要である。従って、授業の秩序を乱し、私語をする学生には、その場で退出を願う。真摯な態度での学習を望みたい。

中国語		担当教員	い 易	こうえん 洪 艶
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択	
演習	2 単位	2 年次通年	選択	

[1] 授業のねらい

この授業では現代中国語（共通語）の発音、基礎単語、基礎文法を習得して、簡単な買い物や旅行など限られた場面でコミュニケーションができるようになることを目標とします。一般に「中国語＝漢字」というイメージがありますが、言語は第一義的に音ですので、視覚的に理解するのではなく、中国語の音を聴いて理解するように心掛けてください。外国語の上達の秘訣はスポーツと同様に繰り返し練習することと大きな声をたして練習することにあります。ですから授業中は大きな声を出すように心掛けてください。

[2] 授業の計画

- 第1回 中国の国土、民族など。
- 第2回 中国語の表記法、文字、普通話、方言など。
- 第3回 声調（四声）。単母。3声の変調。軽音。n と ng。子音。
- 第4回 その他の発音上の注意事項。
- 第5回 基本語順（SV0）。疑問文（1）。否定。
- 第6回 人称代詞。疑問文（2）。各種の述語文。
- 第7回 第1回～第6回の復習。
- 第8回 誘い方。的の用法。名前の聞き方・答え方。
- 第9回 疑問文（3）。二重目的語。選択疑問文。
- 第10回 多少と几。場所を表す指示代詞。指示代詞。
- 第11回 文末付加疑問文など。
- 第12回 有の用法。量詞。両。的の用法。
- 第13回 動詞の重ね型。在の用法。方位詞。など。
- 第14回 第8回～第13回の復習と確認
- 第15回 第1回～第14回の復習とまとめ
- 第16回 中国語 I の重要事項の確認、復習。
- 第17回 年齢の聞き方。多+形容詞。
- 第18回 助動詞の会・能・想の用法。
- 第19回 曜日、時刻の言い方。時間詞。要と不要。
- 第20回 離と到。来。比較の言い方など。
- 第21回 第16回～第20回の復習。
- 第22回 年月日、お金の言い方。
- 第23回 時点と時間量。
- 第24回 動量詞。前置詞の給・用の用法。
- 第25回 了の様々な形態と用法。進行を表す在。方向動詞。方向補語など。
- 第26回 別～了。把。
- 第27回 是～的、使役。受け身。など。
- 第28回 第22回～第27回の復習。
- 第29回 学習成果の確認。
- 第30回 第16回～第29回の復習とまとめ

[3] 評価の方法

試験期間中に試験をする。

毎時間出す「課題」の解答の提出・授業中の態度（30%）と試験の成績（70%）を総合して評価します。（毎時間終了前に B5 用紙 1 枚の程度の「課題」を出す。提出した者を出席とする。）

[4] 教 材

テキストを持たない人の受講は認めない。

梁継国・大森真理『中国語の時間』朝日出版社 2011年

[5] 参考図書

相原茂編著『中国語学習ハンドブック』大修館書店 最新版

辞書：『中日辞典』（小学館）『日中辞典』（小学館） 最新版

辞書：相原茂編著『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版

英語会話 I		担当教員	マイケル チャッセン ロッキーナ フクシマ Michael Chassen・Rokeena Fukushima
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2 単位	2 年次通年	選択

[1] 授業のねらい

The goals of this class are to build on the students current level of English, enabling them to deal with higher level conversational situations at home or abroad.

(この授業のねらいはこれまでの学生諸君の英語の学習の基礎の上に、国内や国外でのさまざまな英会話の表現をより高度なレベルで学習することです。)

[2] 授業の計画

第 1 回 Chapter 1 : USING BE AND HAVE Noun	第 16 回 THE SIMPLE PAST: IRREGULAR VERBS
第 2 回 Negatives	第 17 回 THE SIMPLE PAST: USING WHERE, WHEN, WHAT TIME
第 3 回 Be Verb	
第 4 回 Chapter 2 : EXPRESSING PRESENT TIME	第 18 回 Chapter 6 : EXPRESSING FUTURE TIME
第 5 回 PRONUNCIATION OF FINAL -S: /Z/ AND /S/	第 19 回 USING BE GOING TO
第 6 回 THE SIMPLE PRESENT. NEGATIVE	第 20 回 VERB SUMMARY: PRESENT, PAST, AND FUTURE
第 7 回 Chapter 3 : THE PRESENT PROGRESSIVE	第 21 回 IF-CLAUSES
第 8 回 PRESENT PROGRESSIVE. QUESTIONS	第 22 回 Chapter 7 : EXPRESSING ABILITY
第 9 回 SEE, LOOK AT, WATCH, HEAR, AND LISTEN TO	第 23 回 USING CAN
第 10 回 Chapter 4 : NOUNS AND PRONOUNS	第 24 回 POLITE QUESTIONS: MAY I. COULD I. AND CAN I
第 11 回 ADJECTIVE + NOUN	第 25 回 Chapter 8 : NOUNS . ADJECTIVES AND PRONOUNS
第 12 回 NOUNS: COUNT AND NONCOUNT	第 26 回 INDIRECT OBJECTS
第 13 回 Chapter 5 : EXPRESSING PAST TIME	第 27 回 Chapter 9 : MAKING COMPARISONS
第 14 回 USING BE: PAST TIME	第 28 回 THE SUPERLATIVE
第 15 回 PAST OF BE: QUESTIONS	第 29 回 Chapter 10 : EXPRESSING IDEAS WITH VERBS
	第 30 回 SIMPLE PAST vs . PAST PROGRESSIVE

[3] 評価の方法

The majority of the grade will be based on in-class participation. The rest will be based on one final written/oral tests.

試験期間中に試験は実施しない。

(評価の中心は授業中の活動ですが、各学期に面接試験と筆記試験を行います。)

[4] 教 材

Betty Schramper Azar 『Basic English grammar』 (LONGMAN)

[5] 参考図書

English-Japanese /Japanese-English Dictionary

英和辞典・和英辞典を必ず持参してください。

英語会話 I		担当教員	の 野 本 尚 美
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2 単位	2 年次通年	選択

[1] 授業のねらい

この授業では、保育園での生活を描いたテキストを用いて、基礎的な英会話能力を身につけることを目標とします。園での一日の生活や年間行事を軸に、様々な語彙や表現、基本的な文法などを学びます。保育の現場で用いられる英語は、例えば食事・運動に関する語彙や、お礼を述べるとき・謝るとき表現など、園の中だけに限らず日常生活においても役立つものばかりです。間違ふことを恐れずに、積極的に授業に参加してください。

[2] 授業の計画

第 1 回	オリエンテーションと自己紹介	第 16 回	Unit11 Preparation
第 2 回	Unit1 The School Year Begins	第 17 回	Unit12 The Sports Day
第 3 回	Unit2 Arrival	第 18 回	Unit13 Going for a Walk
第 4 回	Unit3 Playtime in the Classroom	第 19 回	Unit14 Discovering Autumn
第 5 回	Unit4 In the Sandbox	第 20 回	Unit15 Drawing
第 6 回	Unit5 In the Playground	第 21 回	Review 11-15
第 7 回	Review 1-5	第 22 回	Grammar 3
第 8 回	Grammar 1	第 23 回	Unit16 A Snowy Day
第 9 回	Unit6 Lunchtime	第 24 回	Unit17 Leaving for Home
第 10 回	Unit7 Changing Clothes	第 25 回	Unit18 School Diary
第 11 回	Unit8 Nap Time	第 26 回	Unit19 Bean-Throwing Day
第 12 回	Unit9 Blowing Bubbles	第 27 回	Unit20 With Thanks
第 13 回	Unit10 A Sick Child	第 28 回	Review 16-20
第 14 回	Review 6-10	第 29 回	Grammar 4
第 15 回	Grammar 2	第 30 回	Grammar Review 1-4

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を行う。

筆記試験 70 点 面接試験 30 点

欠席、遅刻・早退については減点する。

その他、授業進行の妨げになる行為（私語・携帯電話など）についても減点する。

[4] 教 材

森田和子「新・保育の英語」（三修社、2010 年）

[5] 参考図書

必要に応じて講義の中で紹介します。

英語会話Ⅱ		担当教員	マイケル チャッセン Michael Chassen
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2 単位	2 年次通年	選択

[1] 授業のねらい

The goals of this class are to build on the students current level of English, enabling them to deal with higher level conversational situations at home or abroad.

(この授業のねらいはこれまでの学生諸君の英語学習の基礎の上に、国内や国外でのさまざまな英会話の表現をより高度なレベルで学習することです。)

[2] 授業の計画

第 1 回 Chapter 1 PRESENT TIME	第 16 回 Chapter 9 COMPARISONS
第 2 回 various present time patterns	第 17 回 superlatives and comparisons
第 3 回 Chapter 2 PAST TIME	第 18 回 Chapter 10 THE PASSIVE
第 4 回 various past time patterns	第 19 回 past participle
第 5 回 Chapter 3 FUTURE TIME	第 20 回 Chapter 11 COUNT /NONCOUNT NOUNS AND ARTICLES
第 6 回 various future time patterns	第 21 回 Chapter 11 continued
第 7 回 Chapter 4 THE PRESENT PERFECT AND THE PAST PERFECT	第 22 回 Chapter 12 ADJECTIVE CLAUSES
第 8 回 past participle	第 23 回 Chapter 12 continued
第 9 回 Chapter 5 ASKING QUESTIONS	第 24 回 Chapter 13 GERUNDS AND INFINITIVES
第 10 回 continued	第 25 回 too and enough
第 11 回 Chapter 6 NOUNS AND PRONOUNS	第 26 回 Chapter 14 NOUN CLAUSES
第 12 回 plurals	第 27 回 Movie presentation The Wizard of Oz
第 13 回 Chapter 7 MODAL AUXILIARIES	第 28 回 Movie Part II
第 14 回 Chapter 8 CONNECTING IDEAS	第 29 回 Movie Discussion
第 15 回 Mid-Term Test	第 30 回 Final Test

[3] 評価の方法

The majority of the grade will be based on in-class participation. The rest will be based on one final written/oral tests.

(評価の中心は授業中の活動ですが、各学期に面接試験と筆記試験を行います。)

[4] 教 材

Betty Schramper Azar 『Fundamentals of English grammar』 (LONGMAN)

[5] 参考図書

English-Japanese /Japanese-English Dictionary
英和辞典・和英辞典を必ず持参してください。

英語表現Ⅱ		担当教員	おがわ ひでお 小川 英雄・Rokeena Fukushima
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2単位	2年次通年	選択

[1] 授業のねらい

このクラスでは Longman の Impact Issues のテキストを用い恋愛・友情・家族・職業・倫理などの **personal issues** (個人的問題) や人権・国際化・ナショナリズム・環境問題・対立と平和・難民問題・教育などの **social issues** (社会問題) を英語で討論したり、自分の意見をプレゼンテーションしたりします。言い換えれば英語による opinion 形成と Discussion, Paragraph Writing & Presentation が授業の主な活動となります。ねらいとする communication skills は pair conversation, small group discussion, debate & presentation です。そして各授業の最後にその単元の話題について自分の考えを 3 paragraphs 程度の英文にまとめます。これが Presentation の原稿になります。

さらにこの授業では、①教師や友人と語り、CD を聞き、textbook や website から authentic (本物) な情報に接することにより皆さんが直面する issues や challenges への理解を深め、②皆さんの Critical Thinking, Self-Expression の力をつけ、③明日の世界を強く生き抜く Motivation になればと願っています。

2 回生は就職活動で忙しくなりますが、この授業の成果は就活の面接試験にも役立ちます。英検準 2 級以上の interview test は楽勝でしょう。楽しい授業にしましょう！

なお、この授業は、小川と Rokeena との team-teaching で行います。また、授業は Moodle を使った e-Learning で行うので、家から課題を online で提出したり、欠席した授業も moodle プログラムを活用したりして家で再履修することができます。

[2] 授業の計画

第 1 回 The Guy with Green Hair	第 16 回 Pet Peeve
第 2 回 The Shoplifter	第 17 回 Close Your Eyes
第 3 回 I' m not Addicted	第 18 回 Will Children Save the Earth?
第 4 回 Beauty Contest	第 19 回 Get a Job!
第 5 回 Who pays?	第 20 回 Tell or Not To Tell
第 6 回 Saying "I love you"	第 21 回 The Dream
第 7 回 Family Values	第 22 回 To Have or Have Not
第 8 回 Cyber Love	第 23 回 Are Humans Smart
第 9 回 A Letter from Grandma	第 24 回 Cloning Cyndi
第 10 回 Fan Worship	第 25 回 Why Learn English?
第 11 回 Presentation	第 26 回 Presentation
第 12 回 Presentation	第 27 回 Presentation
第 13 回 Debate	第 28 回 Debate
第 14 回 Debate	第 29 回 Debate
第 15 回 Debate	第 30 回 Debate

[3] 評価の方法

授業中の発表・Presentation (20%)、各レッスン課題-Paragraph Writing (30%)、期末試験 (50%)

[4] 教材

「Impact ISSUES 1」 by Richard R. Day & Junko Yamanaka, Longman